

# 山行報告書

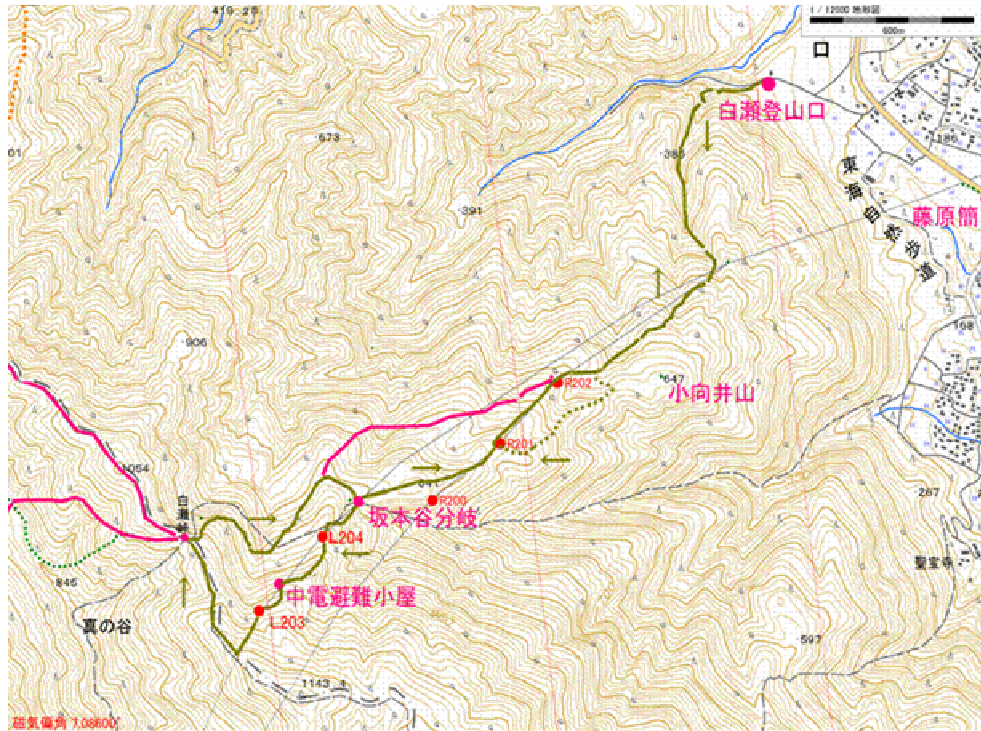
作成: 2010年12月13日

愛知岳連 岡崎山岳会

山名[山域]	頭陀ヶ平 [北鈴鹿]	目的[方法]	冬期ルート確認[歩トレ]
期間	2010年12月10日(土)	形態	一部周回、ピストン
参加人数	1人		

## 行動記録: 曇り

自宅(610)==豊田南 IC==桑名 IC(700)==サークル K(730,740)==藤原簡易P(745,800)--白瀬登山口(815)320m  
 --1:11--左尾根分岐(926)--0:31--鉄塔R201(957)--0:16--坂本谷分岐(1013,1023)--0:32--中電作業小屋  
 (1055,1100)--0:27--県境稜線(1127)--0:15--白瀬峠(1142)--0:18--坂本谷分岐(1200,1245)--0:40--鉄塔  
 R201--(1330,1340)--0:35--白瀬登山口(1415)--0:15--藤原簡易P(1430)



## 日誌:

前日の冷え込みに新雪を期待したが鈴鹿山脈に薄化粧程度。広いふじわら簡易Pに登山者らしき車は5~6台と白瀬登山口に1台。冷川林道閉鎖用のチェーンは外され、丸尾コースも歩いて見たいと考えながら、ポケットから出した新しいシルバーコンパスの針が動かず。オイル漏れで交換したばかりで不信感が増す。現在地も確認できないのかと考えるとぞっとするが、歩き慣れたコースなのでそのまま歩くことにした。木和田尾の谷は9月豪雨の影響なくほっとするも、御池谷方面からの銃声でも発破でもない不自然な音が幾度か気になる。驚いた動物と鉢合わせにならないようにと脚を進める。雪混じりの広まった二次林から直進道を変更し左の尾根に乗る。鉄塔R201で再び合流。霊仙、伊吹山、遠くに白山、中央ア、北アなど曇り空から山塊をいつものように同定後、坂本谷分岐より白瀬道を分ける。無人中電避難小屋裏からトレースのない最短路を探して見ると、中途半端な雪トラバース道は歩き辛そうで、直登しても大差ないと判断。右側巡視路沿いの深い草つき急登を白瀬峠寄りに少し振ってみればひと登りで県境稜線に出る。珍しく風は穏やかで対峙するテーブルランドに想いをはせながら少し降って1008mの白瀬峠。プレートに刻まれた字体が妙に懐かしい。真の谷までピストンの余裕もあるが次回を楽しみに下山開始。山腹道は雪解け落ち葉でふかふか。難しさはないがじっとしているとすぐ体が冷えてくる。独りの昼食も面倒に感じるがせっかく用意した鍋だ。食してから帰ろうと脇道に入れば、樹の根元に美味しそうな茸を発見。続いてヒメがマッシュルームを抱きかかえる茸は「ツチグリ」だそうで食用とも…。往路は思いがけず脚元の楽しい茶袋探しとなった。

## 感想:

雪のテーブルランド…テント泊か日帰りか? 戦略を考えながら歩いてみた。… Maybe yes, maybe no …